



フォルクスビューネ・アム・ローザルクセンブルク・プラッツ
Volksbuehne am Rosa-Luxemburg-Platz

原作:テネシー・ウィリアムズ / 脚色・演出:フランク・カストルフ

『終着駅アメリカ』

Endstation Amerika

<ドイツ語上演・日本語字幕付>

日本におけるドイツ 2005/2006
平成16年度文化庁国際芸術交流支援事業
2005年日・EU市民交流年

主催: NPO法人アートネットワーク・ジャパン / 東京ドイツ文化センター / APA (芸術振興協会)

共催: 世田谷パブリックシアター

制作: フォルクスビューネ / ザルツブルク演劇祭

協賛: アサヒビール(株) / (株)資生堂 / トヨタ自動車(株) / 松下電器産業(株)

 Lufthansa

2005年3月25日(金) - 28日(月)

世田谷パブリックシアター

お問合せ

東京国際芸術祭 (TIF)

TEL.03-5961-5202 / FAX.03-5961-5207 / tif@anj.or.jp

2005年3月、東京国際芸術祭は、ドイツ・ベルリンより鬼オフランク・カストルフ率いるフォルクスビューネを初招聘し『終着駅アメリカ』を上演します。本作品は2000年7月にザルツブルク演劇祭において初演。「カストルフはテネシー・ウィリアムズに密接している。とは言っても作家の一語一語にではなく、その魂に忠実なのだ」(ディ・ヴェルト紙)と舞台の本質を高く評され、01年権威あるベルリン演劇祭へも招待されました。89年のベルリンの壁崩壊後、十数年の歳月を経てもなお内在する、再統一後のドイツが抱える問題があぶり出される舞台です。

テネシー・ウィリアムズ原作「欲望という名の電車」を、戯曲の破壊者と異名をとるカストルフが西側資本主義社会を弾劾する、猥雑で暴力に満ちた世界へと舞台化

故郷でポーランド語教師をしていたブランチは、親族たちがつくった多額の借金返済のために屋敷を売却。さらに男子生徒を誘惑したことにより免職処分を受け、心身ともに疲れ果てた状態で妹ステラ夫婦を頼ってやってくる。しかし元連帯の幹部であったポーランド人のステラの夫スタンリーは、ブランチを全く受け入れることができない。度重なる軋轢に、待望の2世誕生を間近に控えたスタンリーは以前の幸せな生活を取り戻すため、ブランチにバスのチケットを手渡す。ところがステラは死産してしまう。そして自らの過去も暴かれたブランチは……………。

舞台はコンテナ・ハウスにも見える低所得者向けのワンルーム住宅。カストルフはアメリカに暮らすスタンリー家を、この旧東ドイツにある典型的なタイプの家(高層団地WBS70タイプ住宅)に住まわすことにより、“旧東ドイツ”をどこにでも存在するものとした。また時代設定も正確ではなく、スタンリーが語る連帯の話は71年に起きたことになっており、事実とは10年の歴史的ずれがある。カストルフは場所や時の明確化を周到に避け、曖昧にすることによりこの物語にさらなる普遍性を持たせた。その舞台を革命歌『ワルシャワ労働歌』、ギターやベースによる生演奏、『バイビー・ワン・モア・タイム』などのアメリカンポップスが包む。またテレビモニターが多用されバスルームでの出来事が随時映し出される。ビデオ撮影についてカストルフは「私は世界のすべてを見ているわけではなく、いつも小さな断片を見ているにすぎない。何故舞台上でそうであってはならないのか。ビデオ設置の核心はリアリティなのだ。」と語っている。本作品もカストルフ演出作品特有の、オリジナル戯曲に様々な政治的ドキュメントを組み合わせる再構成する舞台だが、そこには彼ならではの過激なユーモアが至る所に存在しており、作品にコミカルな一面も与えている。

1947年に発表された「欲望という名の電車」は、オリジナルテキストの改変を認めないT・ウィリアムズの上演権利者がオリジナルタイトルでの上演を拒否したために、初演後『終着駅アメリカ』(独語タイトル『Endstation Amerika』)となった。しかし誕生から約60年後にアメリカを代表するこの戯曲はカストルフの手腕により、時代の風をうけて新たな息吹を与えられた。

若い世代に劇場を開くフォルクスビューネと旧東ドイツ国民のアイデンティティーを追及し続けるフランク・カストルフ

フォルクスビューネは、ベルリンでもっとも有名な劇場のひとつで、前衛的で斬新な舞台で知ら

れている。労働者5万人の寄付により1914年にオープンしたベルリンの公共劇場。近年の公的資金の助成額削減で揺れるドイツ演劇界だが、それでも他国に比べ手厚い助成制度のもとで運営されている。

その長い歴史あるフォルクスビューネに、92年より芸術総監督を務めるのはフランク・カストルフ。89年11月のベルリンの壁崩壊、90年の東西ドイツの統一という時代の激流を経ての就任である。カストルフにより同劇場は新たな歩みを始め、就任翌年には、テアターホイテ誌より「1992/93 シーズン最優秀劇場」に選出されている。代表作に『時計仕掛けのオレンジ』(93年・作バージェス)、『汚れた手』(98年・作サルトル)、『悪霊』(99年・作ドストエフスキー)などがある。彼は影響を受けた人物に、シェイクスピア、ブレヒト、ミュラーなどの劇作家、サルトルやボードリヤールといった哲学者のほかにもボブ・ディラン、ニール・ヤング、ローリング・ストーンズといったミュージシャンたちの名をあげており、東ドイツの社会主義体制の下においても、西洋文化に強く影響されていたことが伺える。

カストルフ作品に欠かせない舞台美術チーフ、ベルト・ノイマン

今回の舞台美術を担当したのは、ベルト・ノイマン。1960年マゲデブルク生まれ、東ベルリンで育った。88年カストルフ演出の『酩酊船』がフォルクスビューネデビュー。92年より同劇場の舞台美術チーフに就任する。カストルフ演出作品としては、巨大なネオン看板をモチーフにした『織工たち』(97年)、プレハブの家を一軒舞台上に建てた『悪霊』(99年)・『虐げられた人々』(01年)などがある。またフォルクスビューネの小劇場プラターでの98年からの年間統一舞台、60メートルの工事現場(作デーブリン『ベルリン・アレキサンダー広場』01年)、劇場の中に街を作る「Neustadt (ノイシュタット)新しい街プロジェクト」(02年ベルリン演劇賞受賞)も手掛けており、大規模かつ従来の舞台美術の常識を超えたものが多い。今回の『終着駅アメリカ』の美術について彼は「ソープ芝居(連続昼メロドラマ)のための典型的なテレビセットをイメージし、日常生活がそのまま送れる舞台空間を創った」と語る。ノイマンはこれまでに4度もテアターホイテ誌による年間最優秀舞台美術家に選出されている。

「カストルフは戯曲のテキストを強引と思えるほど意図的に解体し、一見脈絡を失った舞台の上に1990年以後のドイツ社会の歪みが生み出したやり場の無い怒りや倦怠、投げやりさを提示する手法で多くの若い観客を引きつけ、同劇場は90年代のドイツ語圏の劇場の中でもっとも刺激的かつ挑発的な劇場としてよみがえった。」

[立教大学・新野守広教授]

『終着駅アメリカ』への公演評

テネシー・ウィリアムズは 1947 年に彼の国に由来するドラマを物語った。フランク・カストルフは 2000 年にこのアメリカ的な道を歩み始めた私たちの世界の状態を物語る。それはテネシー・ウィリアムズのこだま(反響)なのだ。カストルフはこの神話の核をつかみ、我々に反駁する。

[南ドイツ新聞 2000 年 7 月 27 日]

カストルフはこの物語を驚いたことに誠実に物語る。彼はウィリアムズにおけるいくつかの回りくどさを省き、多くの素敵なアイデアを加えることで活力ある『終着駅アメリカ』を創った。真っ先に彼が戯曲に与えたのは音楽だ。とりわけ魅力的なのはそれがスピーカーからせまってくるのではなく主として生演奏で構成されていることだ。

[フランクフルター・アルゲマイネ新聞 2000 年 10 月 16 日]

主な舞台挿入曲名

『パーフェクト・デイ』(ルー・リード/1972)

『ワルシャワ労働歌』

『ベイビー・ワン・モア・タイム』(プリトニー・スピアーズ/1999)

『スメルズ・ライク・ティーン・スピリット』(ニルヴァーナ/1991)

『アメリカン・パイ』(ドン・マククリーン/1972)

スタッフ・キャスト

原作:テネシー・ウィリアムズ Tennessee Williams

脚色・演出:フランク・カストルフ(芸術総監督) Frank Castorf

美術:ベルト・ノイマン(舞台美術チーフ) Bert Neumann

ドラマツルク:カール・ヘーゲマン Carl Hegemann

照明:ローター・バウムガルテ Lothar Baumgarte

.....

出演:ステラ:カトリン・アンゲラー Kathrin Angerer

スタンリー:ヘンリー・ヒューブヒエン Henry Huebchen

ブランチ:シルビア・リーガー Silvia Rieger

ミッチ:ベルンハルト・シュッツ Bernhard Schuetz

ユーニス:ブリジット・クプリエ Brigitte Cuvelier

スティーヴ:ファビアン・ヒンリックス Fabian Hinrichs

.....

技術監督:草加叔也(空間創造研究所代表)

舞台監督:小林裕二

翻訳・監修:新野守広(立教大学教授)

フォルクスビューネ・アム・ローザルクセンブルク・プラッツ
Volksbuehne am Rosa-Luxemburg-Platz(民衆劇場)

劇場史

19世紀末の労働者運動の高まりを受けて、1890年に設立された「フライエ・フォルクスビューネ(自由民衆劇場)」を母体とする労働者のための観劇組織としてスタート。93年にはハウプトマンの『織工たち』を初演した。幾度か分裂を繰り返したが、第一次世界大戦中に統一組織に成長する。1914年12月の大晦日に、5万人もの労働者の寄付金をもとに2000人収容の豪華な劇場をベルリン市の中心ミッテ地区のピウロウ広場(現ローザルクセンブルク広場)にオープンした。15-18年にはマックス・ラインハルトが芸術総監督を務める。第一次大戦後、フォルクスビューネの組織はドイツ全土に広がり、20年には290団体、総会員35万人を数える「フォルクスビューネ連盟」となった。24-27年にはエルヴィン・ピスカートアが演劇部長として参加するなど演劇の革新を追求した。ナチスが政権をとった33年に「フォルクスビューネ連盟」は解散、活動は停滞を余儀なくされた。

戦後、東側の自由ドイツ労働組合同盟のなかに組み込む目的でソ連占領地区の各地にフォルクスビューネが再組織された結果、47年に東ベルリンに「ドイツ・フォルクスビューネ同盟」が、同年西ベルリンには「フライエ・フォルクスビューネ」が組織された(現在はベルリン演劇祭のメイン会場)。東ベルリンのフォルクスビューネは54年に以前と同じ場所に現在の建物を再建。74-77年、ブレヒトの弟子ベンノ・ベッソン芸術監督のもとで劇場は活性化した。90年の東ドイツ消滅以後、俳優集団による暫定指導體制に移行。当時同劇場のドラマトゥルグであったマティアス・リリエントールの招きで92年よりフランク・カストルフが芸術総監督に就任。タンツ・テアター大御所のヨハン・クレスニク(01年まで在籍・オーストリア人)、バーゼル劇場演出家で音楽家でもあるクリストフ・マルターラー(00年まで在籍・スイス人)、映画監督出身のクリストフ・シュリンゲンジーフ(西ドイツ出身)も招聘した。その後フォルクスビューネは若者層を中心に熱烈な支持を受けるようになり、さらにドイツ演劇界のみならず、世界がその動向をみつめる存在となっている。

劇場施設

フォルクスビューネは820名収容のメインホール以外にも常時利用されているスペースがある。まずは普段は稽古場として使用されている[3.Stock]。演劇公演、映画上映、シンポジウムやディスカッションの会場にもなる。また99名収容のクラブスペースの[赤のサロン]と[緑のサロン]では、ポップス、ロック、パンク、テクノなどのコンサートライブ、新刊本のリーディングや、ラジオの公開放送なども行われている。

地下鉄で2駅離れたやや北のプレントラウアー・ベルク地区にあるPrater プラターも、実験的な試みが多い。区からの要請でほぼ廃墟のような状態であったプラターを、助成金が出ないにもかかわらずフォルクスビューネ側は承諾。プラターはフォルクスビューネの管理下に入り、95年5月屋外の舞台を使った、シュリンゲンジーフ演出の過激な政治集会ショー『プラター・スペク

タクル』で幕を開けた。プラターにはフォルクスビューネの運営管理下にありながら、年間シリーズの構成はプラター・チーフに任されており、2000年よりルネ・ボレシュが就任、話題の舞台を次々と提供している。

90年代以降の公演史

- 1988年：『酩酊船』 作ランボー、ツェレ / **演出フランク・カストルフ**
- 1990年：『群盗』作シラー / **演出カストルフ** 『晩秋の夜』 作デュレンマット / 演出フォス
『始まりの終わり』 作オーケイシー / 演出トラーゲレーン
- 1991年：『間違いの喜劇』 作シェイクスピア / 演出ティーツェ
『森の直前の夜』 作コルテス / 演出ホーフ
- 1992年：『リア王』 作シェイクスピア / **演出カストルフ**
『ラインの叛乱』 作ブロンネン / **演出カストルフ**
- 1993年：『ローザ・ルクセンブルク』 振付クレスニク
『時計仕掛けのオレンジ』 作バージェス / **演出カストルフ**
『ヨーロッパ人をやっつける！』 演出クリストフ・マルターラー
- 1994年：『フリーダ・カーロ』 『エルンスト・ユンガー』 振付クレスニク
『ペンション・シェラー / 戦い』 作ヤコビ、ハイナー・ミュラー / **演出カストルフ**
『嵐』 作シェイクスピア / 演出マルターラー
- 1995年：『ニーベルンゲン』 作ヘッベル / **演出カストルフ**
『ヒンケマン』 作トラー / 演出クリーゲンブルク
- 1996年：『悪魔の将軍』 作ツックマイヤー / **演出カストルフ**
『リナ・ベグリの旅』 作りナ・ベグリ / **演出カストルフ**、マルターラー
- 1997年：『織工たち』 作ハウプトマン / **演出カストルフ**
『愛の饗宴(テオレマ)』 パゾリーニ / 振付クレスニク
『三人姉妹』 作チャーホフ / 演出マルターラー
- 1998年：チーフドラマトゥルグ、マティアス・リリエントール辞任、後任はカール・ヘーゲマン
『汚れた手』 作サルトル / **演出：カストルフ**
『ホテル・ルクス』 振付クレスニク
『パリの生活』 作オッフェンバッハ / 演出マルターラー
- 1999年：『薔薇戦争シリーズ連作』 作シェイクスピア、上演場所：プラター(新グローブ座)
(「リチャード2世」「ヘンリー6世」(**演出カストルフ**)「リチャード3世」(振付クレスニク)他)
『悪霊』 作ドストエフスキー / **演出カストルフ** / 美術ノイマン [注1]
『ゴヤ』 振付クレスニク
- 2000年：『カリギュラ』 作バタイユ、カミュ / **演出カストルフ**
『ドン・キショット』 振付クレスニク
『終着駅アメリカ』 原作T・ウィリアムズ / 脚色・**演出：カストルフ**

『素粒子』 作ミッシェル・ウェルベック / **演出カストルフ**

2001 年: 『美しき新世界』 振付クレスニク

『プラーター三部作』 作・演出: ポレシュ 上演場所: プラーター (住宅舞台)

(「餌食としての都市」「アットホーム・イン・ホテル」「セックス」)

『虐げられた人々』 作ドストエフスキー / **演出: カストルフ**

『十戒』 作・演出マルターラー

『ローズバッド』 テキスト・演出シュリンゲンジーフ

2002 年: 『ピカソ』 振付クレスニク

『クイズ 3000、あんたは破滅!』 演出シュリンゲンジーフ

カストルフ体制 10 周年記念は『Neustadt 新しい街プロジェクト』 (設計ノイマン)

『白痴』 作ドストエフスキー / **演出: カストルフ** (「新しい街プロジェクト」) [注2]

『巨匠とマルガリータ』 作ブルガーコフ / **演出カストルフ**

2003 年: 『アッタ・アッタ、芸術は爆発した!』 演出シュリンゲンジーフ

『フォーエバーヤング』 原作 T・ウィリアムズ「青春の甘き小鳥」 / **脚色・演出カストルフ**

『黒人と犬の闘争』 作ベルナル＝マリ・コルテス / 演出: ゴットシェフ

2004 年: 『コカイン』 作ピティグリッリィ **脚色・演出カストルフ**

『テレファベラ』 作・演出ポレシュ

『金への渴望』 原作フランク・ノリス「Mc Teague. A Story of San Francisco」

脚色・演出カストルフ

『プラス・チェーン店のパブロ』 作・演出: ポレシュ

ベルリン演劇祭招待作品

[注1]: 『悪霊』はテアターホイテ誌 1990/00 シーズンの最優秀演出チームに選ばれた

演出: カストルフ、美術: ノイマン、ドラマトゥルグ: マティアス・ピース

音楽: サー・ヘンリー

[注2]: 『白痴』はテアターホイテ誌 2002/03 シーズンの最優秀演出家賞(カストルフ)、最優秀舞

台美術家(ノイマン)、最優秀俳優(マルティン・ヴトケ)に選ばれた

フランク・カストルフ Frank Castorf(フォルクスビューネ芸術総監督)

1951年ベルリン生まれ。実家は東ベルリンのブレンツラウアー・ベルグ区の個人商店。東ベルリン・フンボルト大学で演劇学を学ぶ。79年の『鋼鉄は黄金色に流れる』(原作カール・グリュンベルク)の演出をめぐる党と対立、北海沿岸の地方都市アンクラムに追いやられる。しかしアンクラム劇場でシェイクスピア、イプセン、ブレヒト、ハイナー・ミュラーの作品の演出で注目を集め、80年代後半におこったペレストロイカ期には旧東ドイツ各地で演出活動を展開、88年以後、旧西ドイツ、スイスでの客演出が増え、次代を担う若手演出家として脚光を浴びる。



© THOMAS AURIN

92年よりフォルクスビューネの芸術総監督をつとめる彼の手腕により、同劇場は90年代ドイツ語圏の劇場の中でもっとも刺激的かつ挑発的な劇場としてよみがえった。就任以後、東ドイツ出身者を暗黙裡に二級国民と位置づける統一ドイツの差別構造を告発し、西側資本主義社会を弾劾する舞台を次々と演出している。99年以降、彼がシリーズとして取り組んできたのは、ドストエフスキー・プロジェクト(『悪霊』『虐げられた人々』『白痴』)と、アメリカ・ドラマ・プロジェクト(『終着駅アメリカ』『喪服の似合うエレクトラ』『フォーエバーヤング』)。とりわけドストエフスキー・プロジェクトは、ベルト・ノイマンによる舞台美術、サー・ヘンリーの音楽、更に映像ディレクターのヤン・シュペッケンバッハの映像も大きな役割を果し、映像/芝居の混在のなかで、演劇において何がリアルかを問いかける演出として大きな話題を巻き起こした。最近では2004年初夏のアヴィニョン演劇祭で上演された『コカイン』は、アヴィニョンに集まった世界中の人々に大きな衝撃を与えた。さらに同年のルール演劇祭のディレクターにも就任し、若手に機会を与えると共に、自らも『金への渴望』(原作フランク・ノリス「Mc Teague. A Story of San Francisco」)を脚色・演出した。カストルフは02年に芸術総監督の契約を更新し、任期は07年までとなっている。

フォルクスビューネ以外の演出作品も多数あり、95年ハンブルク『サービスエリア』(作イェリネク)、96年ハンブルク『ブンティラ旦那と下男のマッティ』(作ブレヒト)、03年チューリヒ『喪服の似合うエレクトラ』(作オニール)などがあり、いずれもベルリン演劇祭に招待されている。

東ベルリン演劇史

1890年:労働者観劇団体フライエ・フォルクスビューネ協会設立

1914年:寄付により現在の場所に**フォルクスビューネ劇場**を建設

1914年 - 18年:第一次世界大戦

1925年:プレヒト『パール』上演(ベルリン・ドイツ座)

1928年:プレヒト『三文オペラ』(ベルリン・シフバウアーダム劇場)大成功

1933年:ヒトラー政権掌握 ドイツ全土の劇場を国有化、プレヒト等多数の知識人亡命

1940年-45年:第2次世界大戦

1949年:東西ドイツ分裂

プレヒト『肝っ玉おっ母』(ベルリン・ドイツ座)、ベルリナー・アンサンブル設立

1953年:スターリン死去。ベルリン労働者蜂起

1961年:ベルリンの壁ができる

ハイナー・ミュラー東ドイツ作家同盟を除名される(『移住した女、あるいは田舎の生活』上演禁止処分に加えて)

1962年:ペーター・ハックス『憂いと権力』(ドイツ座上演)が批判される

新経済システム失敗

1965年:社会主義統一党第11回中央委員会総会「不動の基準を持つ清潔な国家」

1968年:プラハの春、東ドイツは他の東欧諸国とともにチェコスロヴァキアに軍隊を派遣してプラハの春を弾圧

第一回プレヒト対話

1971年:社会主義統一党第8回党大会、ホーネッカー書記長就任、社会の多様性を認める演説を行う

『群盗』(原作シラー、演出マンフレート・カルゲ/マティアス・ラングホフ、**フォルクスビューネ**)

1973年 - 74年:**フォルクスビューネ「スペクタクル1&2」**

1976年:歌手ヴォルフ・ピーアマン、西ドイツのケルンでコンサート。東ドイツ市民権剥奪される

作家トーマス・ブラシュ、女優カテリーナ・タールバッハ、演出家アドルフ・ドレーゼンなど著名な東ドイツ知識人演劇人が西へ去る

1977年:ミュラー『ハムレットマシーン』執筆

1979年:**『鋼鉄は黄金色に流れる』(原作カール・グリュンベルク 1953年、演出カストルフ、ブランデンブルク)**

上演禁止処分

1982年:『マクベス』(翻案・演出ミュラー、**フォルクスビューネ**)

1985年:ゴルバチョフがソ連共産党書記長に就任。「ペレストロイカ」始まる

ドレスデンでジャン・ジュネの『女中たち』が東ドイツ初演

ハイナー・ミュラーの『移住した女、あるいは田舎の生活』再演(ドレスデン)

1987年:サルトルの『蠅』(ドイツ座)とベケットの『ゴトーを待ちながら』(ドレスデンが東ドイツ初演)

1988年:ハイナー・ミュラーの戯曲集出版される

『賃金を抑える男』(作・演出ミュラー、ドイツ座、56年の作品の再演)

『過渡期の社会』(作フォルカー・ブラウン、マクシム・ゴーリキ劇場)

- 『レーニンの死』(作ブラウン、ベルリナー・アンサンブル、70年の作品の初演)
- 1989年:11/4 アレクサンダー広場での50万人集会 11/9 ベルリンの壁崩壊
- 1990年:『ハムレット/マシーン』(ドイツ座、演出ミュラー)、ミュラー東ドイツ芸術アカデミー総裁就任
- 『群盗』(原作シラー、演出カストルフ、フォルクスビューネ)**
- 3/18 人民議会第一回自由選挙、キリスト教民主党同盟の圧倒的勝利
- 7/1 東ドイツの通貨マルクの廃止 10/3 ドイツ再統一
- 1991年:『モーゼル銃 カルテット 拾い子』(構成演出ミュラー、ドイツ座)
- 1992年:ベルリナー・アンサンブル共同芸術監督制(ミュラー、マルカルト、バリッチュ、ラングホフ、ツァデク)
- カストルフ、フォルクスビューネ芸術総監督就任、クレスニク、マルターラーを招聘**
- 『リア王』(演出カストルフ、フォルクスビューネ)**
- 1993年:『決闘 トラクター ファッツァー』(構成演出ミュラー、ベルリナー・アンサンブル)
- 『時計仕掛けのオレンジ』(原作バージェス、演出カストルフ、フォルクスビューネ)**
- 『ヨーロッパ人をやっつける!』(構成演出マルターラー、フォルクスビューネ)**
- 1994年:『カルテット』(作・演出ミュラー、ベルリナー・アンサンブル)
- 『ベンシオン・シェラー/戦い』(原作ミュラー等、演出カストルフ、フォルクスビューネ)**
- 1995年:『アルトゥロ・ウイの興隆』(作ブレヒト、演出ミュラー、ベルリナー・アンサンブル)
- 1996年:ミュラーの葬儀が行われる
- 『ゲルマーニア 3』(作ミュラー、演出ヴトケ、ベルリナー・アンサンブル)
- ドイツ座『バラック』(オスターマイアー)、小スペース『ゾフィーエン・ゼーレ』(サシャ・ヴァルツ)スタート
- 『鋼鉄は黄金色に流れる』新版、『悪魔の将軍』(演出カストルフ、フォルクスビューネ)**
- 1997年:『織工たち』(原作ハウプトマン、演出カストルフ、フォルクスビューネ)
- 1998年:『汚れた手』(原作サルトル、演出カストルフ、フォルクスビューネ)
- 1999年:『薔薇戦争シリーズ』(フォルクスビューネ・ブラーター)
- 『悪霊』(原作ドストエフスキー、演出カストルフ、フォルクスビューネ)**
- ユダヤ博物館新館オープン
- 2000年:『終着駅アメリカ』(原作T・ウィリアムズ、演出カストルフ、フォルクスビューネ)
- 劇団シャウビューネ、アンサンブルを一新する(共同芸術監督にサシャ・ヴァルツ、オスターマイアー)
- 2001年:『虚けられた人々』(原作ドストエフスキー、演出カストルフ、フォルクスビューネ)
- 『エミリア・ガロッティ』(原作レッシング、演出タールハイマー、ドイツ座)
- 『マイホームのインソーシング くそたれホテルの人々』(邦題『アットホーム・イン・ホテル』(作・演出ボレスリュ、ブラーター)**
- 2002年:『白痴』(原作ドストエフスキー)、『巨匠とマルガリータ』(原作ブルガーコフ)
- 演出カストルフ、フォルクスビューネ**
- 2003年:『ノラ(人形の家)』(原作イブセン、演出オスターマイアー、劇団シャウビューネ)
- 2004年:『コカイン』(原作ピティグリッリイ、演出カストルフ、フォルクスビューネ)

公演概要 Information

公演日 2005年3月25日(金) 28日(月)

3月25日(金)	3月26日(土)	3月27日(日)	3月28日(月)
	17:00	17:00	
19:00			19:00

上演時間：2時間40分/ 終演後ポスト・パフォーマンス・トークあり

会場 世田谷パブリックシアター

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 4-1-1 TEL.03-5432-1526

料金 A席(1・2階席)4,000円 / B席(3階席)3,500円
学生席2,500円(当日要学生証提示、枚数制限あり、TIFでのみ取扱い)

SePT 倶楽部会員(くりっくチケットセンターで前売のみ取扱い)

A席(1・2階席)3,600円

世田谷区民割引(くりっくチケットセンターで前売のみ取扱い)

A席(1・2階席)3,800円

*チケット料金には消費税が含まれます。

前売開始 1月14日(金) / SePT 倶楽部会員 1月12日(水) / 世田谷区民 1月13日(木)

チケット取扱 くりっくチケットセンター TEL. 03-5432-1515 (月曜不定休)
チケットぴあ TEL .0570-02-9999
0570-02-9966(Pコード 358-976)

東京国際芸術祭(TIF) TEL.03-5961-5202 <http://anj.or.jp>

お問い合わせ 東京国際芸術祭(TIF)
TEL. 03-5961-5202 tif@anj.or.jp <http://anj.or.jp>

<託児サービスのご案内 (定員あり 要予約)>

全公演有り 料金:2,000 円 対象:生後 6 ヶ月以上 9 才未満

障害のあるお子様についてはご相談下さい。

お申込み TEL.03-5432-1530 世田谷パブリックシアター(午前 10 時 ~ 12 時)

お申込み〆切 ご利用希望日の 3 日前

<車椅子スペースのご案内>

定員あり / 要予約 / 料金:1F 席料金より 10% 割引、付添者 1 名は無料 /

お申込み TEL.03-5432-1515 くりっくチケットセンター(午前 10 時 ~ 18 時)月曜不定休

お申込み〆切 ご利用希望日の前日(チケットセンター月曜休の場合は日曜まで)

なお、当日やむをえずご来場出来なくなった場合は必ずご連絡下さい。

Endstation Amerika. An adaptation by Frank Castorf of A STREETCAR NAMED DESIRE by Tennessee Williams A co-production of Volksbuehne am Rosa-Luxemburg-Platz with the Salzburger Festspiele. Premiere during the Salzburger Festspiele on July 25th 2000, premiere in Berlin October 13th 2000 at Volksbuehne am Rosa-Luxemburg-Platz.